

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和6年9月20日 第22号

校内研究

「共に学び 認め合う 子どもの育成 ～話す聞くの活動を通して～」をテーマに校内研究を行っています。

先週は6年生の国語の時間を活用して、「話す・聞く」活動を使い、どのように学習成果が得られるか、教育委員会から指導主事の先生をお招きし授業観察と研究討議を行いました。

ところで、先日大阪市内への出張の帰り、久しぶりに超大型書店に立ち寄りました。寄ってみて、ときどき本屋をのぞき最新の世間の動向を知ることが、大切だと実感しました。

お目当ての本をゲットしてさらにウロウロしていると、平積みされた『わかったつもり～読解力がつかない本当の理由～』（西林克彦著）が目にとまりました。早速買って読んでみました。

文章を理解するには、「スキーマ」と呼ばれる認知心理学という既存の知識が重要で、そのスキーマの程度で文章の理解度が変わると述べていました。結局、話すことも聞くことも総合的な人間の活動で、日々体験することや学習したことがいろんなパターンでつながって、我々の認知になる。まあ、簡単に言うと、元気に毎日活動していると「話すこと」も「聞くこと」も上達していくことになりませんが、さらにそれを伸ばしていくにはどうすればいいか、これを研究しています。

その紹介した本を読みながら途中で『なんか昔聞いたことのある話だなあ』と感じ、出版された時期を調べると、およそ10年前に出版されたもの。出版当時、この本の存在を知りませんでした。

やっぱりちょこちょこ本屋を歩かなければなりません。